

## 「課題探求能力」の育成を目指す DIY 教育システム

—教育 GP 取組プログラムの 30 ヶ月の活動報告—

仁井 和彦・立花 知香

Report on Our 30 Months' Challenge from October 2008 to March 2011: "DIY"  
Education System Will Improve Independence and Individuality of Students

Kazuhiko NIJ and Chika TACHIBANA

### はじめに

秘書科は、平成20年10月～平成23年度3月の30ヶ月、文部科学省が公募した平成20年度「質の高い教育推進プログラム」に選定された申請区分「教育改善の工夫」、取組名称「『課題探求能力』の育成を目指す教育取組－教育課程と教育課程外諸活動を統合する DIY 教育システムの構築」を実施した。実施期間終了を受けて、文部科学省には実施報告書として所定の様式に基づいて作成し、提出した。学内においては平成23年3月付にて「30ヶ月（平成20年10月～平成23年3月）の活動報告書」として学長宛に提出した。

本稿は、推進者の立場から、本プログラムの目的、活動内容を上記報告者から抜粋し、取り纏めたものである。

本取組に関しては、末尾に記載の諸論文にて適時発表しているので、併せて参照されたい。

### 1. 取組の概要と目的：何を目指したか

本取組は、教育課程に教育課程外諸活動（「イベント」）を統合し、①学生に主体的に知識・能力の必要性を自覚させる教育課程の改善工夫の組織的取組であり、②学生が積極的に参画・運営するイベントは PDCA サイクルの下に、教育課程と連動して、課題探求能力の向上を図るものであり、③その進捗状況を「見える化」する DIY サポートシステムの利用により、「課題探求能力」の育成を目指す入学前から卒業後を対象とする総合的教育システムを構築する取組である。

本取組の趣旨・目的は、①取組の背景、社会的ニーズについて、②取組の学生教育の目的と成果に関する具体的な目標について、③学科の人材養成目的との関係について、の3つ視点から、取組の具体的内容・実施体制等を決定し、取組の評価体制のもとに、学生の「課題探求能力」の育成を目指す教育取組として、教育課程と教育課程外諸活動を統合する DIY 教育システムの構築を図るものである。

その背景には、入学後、「なぜ短期大学に入学したのかよくわからない」「なにを学びにきたのかよくわからない」また、「卒業後何をしたいかまだ決めていない」「子育て後、再就職をしたいが、本当に出来るのか」等の悩みが学生間に多く見受けられることにあった。そして、いわゆる

ニートの存在等がメディアを賑わしていた社会的背景もあった。秘書科は、この種の悩み、問題に対して、いわゆる指示待ち族ではなく、自主的に、積極的に、前向きに生きる「課題探求能力」を備える人材の育成、が求められていると考え、具体的な対応策を模索し、教育現場の立場から、方向性、対処策を提起するものとして、本取組を推進することとした。

尚、「課題探求能力」とはなにか。下記の4つに集約した。

- 1) 「なぜ？」を発見し、「なぜ？」に向き合う課題を発見する力を備える。
- 2) 自ら考え自発的に行動する力を備える（個の主体性）

問題発見後の具体的な行動が、真の「個」の確立であり、「個の主体性」を有するためにも重要と認識する。

- 3) マナーを知り、チームを運営できるコミュニケーション能力を備える

現代社会は組織社会であり、チームの一員として、円滑な運営には相手の立場に立ったコミュニケーション能力が必要であり、そのためには、身についたマナー、教養が欠かせないと認識する。

- 4) 組織にコミット（帰属意識と絆）し、組織を活性化できる企画力を備える

組織への確固たるコミットメントにより、組織を引っ張り、組織を活性化する企画力が必要である。

DIYは、“Do It Yourself” “Do It Yasuda Style” 「どこでも いつでも 柔しく剛く」、そして「柔しく剛く」は本学の学園訓であることに由来する。

## 2. 実施状況

### (1) 取組の実施体制

本取組は秘書科全体の取組と位置づけ、秘書科内にプロジェクト実施委員会を設置し、推進した。教育課程外諸活動（イベント）には、教員1名が、学生が企画・運営する実行委員会に顧問として参加。尚、イベント毎の総括、各学期末の総括は、最終的には学科会議において討議され、次回、次年度以降の対策を決定した。

大学の支援体制は、FDフォーラムにおいて取組担当者が状況報告を行い、大学での水平展開の契機が提供され、事務部門は各部門担当者からなる支援体制の下に、期末時、調書作成等の会議招集、進行、フォローアップがなされた。

### (2) 取組の実実施計画に掲げた内容と実績

#### ① 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画と実績

各年次の実施状況の概要は下記の通りである。

項目	年度	20後期	21	22
学生・教職員のDIY意識の向上		教宣段階	本格推進	本格推進
取組の状況		試行段階	本格化前期	本格化後期

この過程で、学生は、教育課程においては「基礎」「展開」「応用」へと学習のレベルを順次上げていくカリキュラム編成に従い学習成果を追求するとともに、教育課程外諸活動においては、イベントへの参加を通し、「知る」「経験する」「試す」「企画する」「指導する」「応援する」の段

階を経て、「課題探求能力」の育成を図った。教職員は、学生のこのような学習レベル、育成段階を総合的視点から理解し、「課題探求能力」の育成支援を図った。

学生・教職員のDIY教育システムの理解、意識は年次上昇し、イベントに関しても、質量ともに充実していった。取組に参加する教職員と学生の数等は以下の通りである。

項目	年度	20後期	21	22
参加教職員		10名	10名	10名
対象学生数		257名	235名	230名

## ② 教育課程・教育方法についての取組

### (a) 教育課程と教育課程外諸活動（イベント）の連携 —DIY教育システムの適用—

教育課程の改善工夫のために、イベント（オープンキャンパス、学科展等）が積極的に活用された。イベント毎に、学生はイベント推進委員会を設立し、学生自身が企画運営を行い、イベント委員（担当教員）は顧問として参加した。その結果、企画運営に知識として必要なものは何か、調整のために必要な心遣いは何か、等を学ぶことができたことを確信する。イベント推進委員会では報告書にまとめ、担当教員に提出した。この報告書は、教職員の回覧に付され、学科会議において、評価され、改善案が協議、決定された。

今回の取組は、学科として、教育課程を教育課程外諸活動（イベント）と連携させて改善工夫をするに際し、具体的には、各イベントの準備・実施と直結する科目履修を通じて、主体的な履修意欲の刺激・向上を図った。個別事例については、3項並びに参考文献<sup>4)5)</sup>を参照されたい。

本取組の継続は、教育課程の工夫・改善に結びつくものであるとの認識の下で、「課題探求能力」の向上に向け、学生の履修モデルの研究とその展開等を、4項に記載の通り、次年度以降も行うこととしている。

### (b) 教育課程外諸活動（イベント）の創出・改善の土壌作り

従来通り、イベントの教職員のサポート・参画は学生の自主的な企画・運営・評価（PDCAサイクル）の円滑な推進への支援に限定され、学生の自主性が尊重された。このようななか、学生による秘書科独自のサークル活動も活発化し、イベント・アクティ部、金融サークル、TOEICサークル、医療事務サークルが順調に立ち上がり、運営されている。

### (c) 「見える化」の支援 —DIYサポートシステムの構築—

取組の円滑な推進においては、情報の共有化に情報システムDIYサポートシステムが構築されたが、それは2つのサブシステムからなる。プロジェクト推進室を中心としたシステム（「いつでもY」サブシステム：ミーティング・ボードやプロジェクトなどのあるプロジェクト推進室）、情報ネットワークを利用したシステム（「どこでもYシステム」：秘書科教職員用情報の「見える化」システム、学生・教職員向けイベント情報の共有化システム等を構築）が稼働し、利用に付されている。

### (3) 社会への情報提供活動（Webサイトの活用、新聞、テレビ等のマスコミの活用等）

DIY教育における情報提供は、イベントごとにその都度Webサイトに掲載され、情報提供がなされた。テレビには地元大学がスポンサーとなっている「Drキャンパ」において、秘書科のオリゼミ活動状況が放映された。また、平成20、21年度ともに「大学教育改革プログラム合同フォーラム」ポスターセッションに、21年度「短期大学の挑戦」の分科会に事例報告者、パネ

ラーとして参加した。また、地元有力紙の中国新聞に本学学生がキャンパスレポーターとして作成した記事で、DIY教育の一環である秘書科憲章が報道された。

教育研究の情報提供には、「安田女子大学紀要」、秘書サービス接遇教育協会発行「ヒューマンスキル教育研究」、実務技能検定協会発行「ビジネス系検定 就職指導ニュース」が活用され、また、他大学からの情報提供要請に応えた。

### ③ 実施体制（大学としての組織的な取組体制）について

秘書科全体の取組と位置づけられ、最優先プロジェクトとして推進され、学科会議の主要課題として取り扱われた。

### ④ 取組の評価体制，方法，指標の設定について

最終的には、秘書科の学科会議で、議論、評価され、改善策の決定がなされた。評価の目標と方法は、1) 学生・保護者、他関係者の参加度・満足度の向上、並びに教職員の達成感の向上（学生の成長度合い、学生満足度、授業担当者コメントなど、関係者からの聞き取り、アンケート、並びにイベント数、イベント参加数・率等で測定）、2) 教育課程外諸活動（各イベント）の完成度の向上（関係者からの満足度等のアンケートをベースに測定）、3) 学生・教員間それぞれ相互の情報共有による「見える化」の向上（学生・教員間相互での情報共有の拡大・深化を、関係者の聞き取りやアンケートで測定。またDIYサポートシステムの使用状況、プロジェクト推進室の稼働状況等から測定）、である。

## (4) 取組の成果

### ① 総括：なにが成し遂げられ、なにが成し遂げられなかったか

本取組の数値的達成度把握は難しい。アンケート調査において教育課程外活動の各イベントの場合、時系列比較は難しく、達成度の把握について、さらなる改善が求められると考えている。下記の表は本取組の総括としてまとめたものである。

項目	年度*	20後期	21	22
新入生定員（100名）充足状況		130名	107名	123名
対象学生数		257名	235名	230名
就職内定率		97.2%	99.2%	98.0% **
取組イベント数 （公開講座件数）		後期7回 （4回）	12回 （4回）	14回 （5回）
教育効果		△（試行段階）	○（本格化前期）	◎
学生・教職員のDIY意識の向上		○（教宣段階）	◎	◎

（注）\*平成20年度は10月からの半年、他は1年。\*\*速報値（平成23年3月31日現在）。

### ② 取組成果の説明

定員充足率に関して言えば、とりわけ短期大学、そして、保育・介護等の直接資格取得に結びつく分野とは異なる一般教養教育が主体の秘書科において、短期大学の志願者が減少する中、一定の志願者数を維持し、定員も充足されている点は本取組の成果の一部と言える。また、就職内定率においても、全国的に厳しい求人環境を考慮した時、内定率の高さは強い就職意欲、就職活動があったことを伺わせ、本取組の成果と言えるのではないかと判断する。

取組イベント数（公開講座件数）は拡大していった。質的な面においても、個別のアンケート

調査の満足度は高い。尚、卒業研究発表は従来学科内行事として非公開で行われたが、平成22年度は公開に踏み切り、保護者の出席の中で行われた。保護者アンケートにおいて、発表内容、態度について、好意的な評価を得た。

教育効果において、DIY教育の本格化とともに高まっていったと判断している。学生の主体性への判断の正当性は上述の就職内定率の高さにあると考える。

学生・教職員のDIY意識の向上については、大学生活の日常のなかで、DIYという言葉がよく発せられること、各イベントでのPDCAサイクルに基づく実績の中で認められるものである。

それではなにが達成できなかったのだろうか。また、その理由は何か。この点に関しては、下記のように総括し、DIY教育の深化、発展に向けて、次年度において、取り組むこととしている。概要は6項参照。

教育課程外諸活動の実績が教育課程に十分に反映していないのではないか。すなわち、教育課程外諸活動の充実化は果たせたものの、教育課程において、諸活動実績が十分に消化されていないのではないか。すなわち、教育課程における教育効果向上に向けた「ビジネス」「情報」「英語」「医療秘書」の4つの柱の相互の連携、科目内での質的アップへの組織的取組が必要であると認識している。

尚、本取組に入学時より取り組んだ平成22年度生対象の「2年間を振り返って」アンケート調査の結果（回収数83）は下記の通りである。

「2年間の生活で最も力を入れたもの」（1つ選択）：就職活動（23%）、イベント（22%）、他  
 「自分の成長度」（5点満点）：専門知識（3.68）、一般常識（3.43）、自主性・積極性（3.53）、コミュニケーション能力（3.6）、マナー（3.9）、社会人としての意識や考え方（3.86）  
 「成長に役立った秘書科のサポート」（複数回答可）：授業（49）、イベント参加（27）、教職員との個別相談や触れ合い（27）、ジョブカフェ・面接練習（23）、海外語学研修（10/参加者17）、他  
 「2年間の自分を10点満点で評価すると」：平均7.12

上記成果を踏まえ、就職内定率は、下記の通り、高い数値を維持した。

項目	年度	20	21	22
就職内定率（対就職希望者）		97.2%	99.2%	99.0%
未内定者数		3	1	1

#### (5) 評価及び改善・充実への取組について

##### ① 評価・改善体制

イベントの質的な向上を担うために、学生からなる実行委員会作成の報告書と担当委員（教員1名）の講評をもとに、秘書科教職員全員が参加する学科会議（科会）でその評価、改善策が議論され、次回、次年の運営方針に反映する体制がとられた。科会は月に一回開催される。本取組期間中も開催日程は変わることはなかった。

本取組期間において、各イベントへの実施状況の報告、評価が従来に増して、意識的に議論され、形骸化を防ぐことができた。この体制のなかで、次年度運営方針、事業計画の明確化、担当教員の早期決定等の改善がなされた。

## ② 達成度・学習効果を測る方法・指標

「課題探求能力」は1項の4項目からなる。この4項目の達成度・学習効果を測る方法・指標について、大凡、下表に記載の通りの要領でなされた。尚、「該当能力」とは、「課題探求能力」の4項目の番号数値である。

案件・イベント	内容（評価の対象）	（測定）方法・指標	該当能力
卒業研究	論文提出方法	日程管理状況	2) 3)
	論文の内容	独創性・完成度	1) 2) 3) 4)
	発表の形式	公開化・完成度	1) 2) 3) 4)
	1年生のパフォーマンス	完成度	1) 2) 3) 4)
	参加者（保護者）の満足度	アンケート調査	3) 4)
秘書科憲章	クラス討議と発表	協議方法と完成度	1) 2) 3) 4)
イベント	企画・運営	アンケート・完成度	1) 2) 3) 4)
公開講座	講座内容と満足度	参加人数とアンケート調査	1) 2) 3) 4)
就職活動	活動意欲と実績	内定率	1) 2) 3) 4)
ピンクリボン	参加意欲・卒業研究対象	参加人数と関与度	1) 2) 3) 4)
独自サークル	参加意欲・企画運営	参加人数と企画件数	1) 2) 3) 4)
課外読書	2年24冊読書の実績	達成度	1) 2)

（注記）

「卒業研究」は非公開であったが、平成22年度公開化された。

「秘書科憲章」は、③(a)記載の通り、全学的な授業中の私語対策に対し、秘書科生として従来あったマナー憲章の改訂版を討議、発表したものである。

「イベント」は、学科別ガイダンス、オリエンテーションセミナー、オープンキャンパス、学科展等を指す。

「公開講座」には高大連携講座、秘書科独自講座がある。

「就職活動」とは、秘書科独自のジョブカフェ、面接指導等の支援を指す。

「ピンクリボン」は、ボランティアとしてのピンクリボン活動への参加状況、また、参加を通して、卒業研究課題としての研究内容を意味する。

「独自サークル」とは、イベント・アクティ部等を指す。

「課外読書」は在学2年間24冊読破を期した秘書科独自のプログラムである。

## 3. 学生参加の教育課程外諸活動実績

## ① 実績一覧

## (1) 平成20年度後期

- 9月17日（水）履修ガイダンス（取組開始宣言）
- 10月16日（木）第2回秘書科特別講演会「秘書の役割と秘書科卒業生による仕事談」
- 11月1日（土）まほろば祭（～2日（日））
- 12月13日（土）秘書科海外語学研修（BETA）保護者説明会
- 12月20日（土）第1回秘書科入学前交流会
- 12月18日（木）第3回秘書科特別講演会「2年生による就職活動体験談」
- 1月24日（土）卒業研究発表会
- 1月31日（土）BETA出発（～3月7日（土））
- 2月14日（土）第2回秘書科入学前交流会

3月14日（土）・15日（日）秘書科20周年記念交歓会「秘書科の現在（いま）愛されて20年そして愛される20年へ—新時代の短期大学の役割と教育機能—」

公開講座：

- ・英語&パフォーマンス「名スピーチをコミュニケーションに活かそう！貴方はオバマ派？それとも…」
- ・ビジネス「学校会計における財務構造の特質—短期大学を中心として—」
- ・情報「コミュニケーションを膨らませる情報技術—DIYで変わる情報教育—」
- ・医療「いままでの医療とこれからの医療—お医者様の時代から患者様の時代へ—」

3月21日（土）謝恩会

3月24日（火）リーダーシップ・トレーニング・セミナー（～26日（木））

## (2) 平成21年度

4月4日（土）入学式後の学科別ガイダンス

4月18日（土）新入生歓迎スポーツ&サークルフェスティバル

5月8日（金）オリゼミ「BIG ☆ BANG」（～10日（日））

6月18日（木）第1回秘書科特別講演会「秘書科卒業生による仕事談」

7月4日（土）BETA学生・保護者説明会

7月25日（土）オープンキャンパス（～26日（日）、8月23日（日））

10月15日（木）第2回秘書科特別講演会「新卒学生に求めること、採用選考時のポイント」

10月31日（土）11月1日（日）まほろば祭

12月17日（木）第3回秘書科特別講演会「2年生による就職活動体験談」

12月19日（土）第1回秘書科入学前交流会，BETA保護者説明会

1月23日（土）卒業研究発表会

1月31日（日）BETA（～3月7日（日））

2月13日（土）第2回秘書科入学前交流会

2月27日（土）秘書科公開講座「パフォーマンス・ワークショップ—身体とところの解放を目指して—」

3月21日（日）謝恩会

3月24日（水）リーダーシップ・トレーニング・セミナー（～26日（金））

## (3) 平成22年度

4月4日（日）入学式後の学科別ガイダンス

4月17日（土）新入生歓迎スポーツ&サークルフェスティバル

5月7日（金）オリゼミ「和華挑探」（～9日（日））

5月13日（木）第1回秘書科特別講演会「私たちの生活と財政の役割」

6月12日（土）BETA学生および保護者説明会

7月24日（土）オープンキャンパス（～25日（日））

8月22日（日）オープンキャンパス

10月2日（土）第1回秘書科公開講座「パフォーマンス・ワークショップ 自分をどう表現

するか—社会生活における振る舞いと責任—」

- 10月16日（土）第2回秘書科公開講座「パフォーマンス・ワークショップ 楽しく剛く一空手に挑戦」
- 10月21日（木）第2回秘書科特別講演会「秘書科卒業生による仕事談」
- 10月30日（土）まほろば祭（～31日（日））
- 11月11日（木）秘書科討論会「マナーとは」（新秘書科憲章制定に向けた討論会）
- 12月16日（木）第3回秘書科特別講演会「2年生による就職活動体験談」
- 12月18日（土）第1回秘書科入学前交流会
- 1月8日（土）BETA 学生・保護者説明会
- 1月20日（木）創立記念日：新秘書科憲章の発表
- 1月23日（日）卒業研究発表会
- 2月1日（火）BETA（～3月6日（日））
- 2月12日（土）第2回秘書科入学前交流会
- 2月26日（土）第3回秘書科公開講座「パフォーマンス・ワークショップ—身体とこころの解放を目指して—」
- 3月15日（火）リーダーシップ・トレーニング・セミナー（～17日（木））
- 3月21日（日）謝恩会

## ② その他の活動実績

### 1) 「新秘書科憲章」発表：「まほろば教養ゼミ」におけるマナーに関する話し合い

#### i. 背景

秘書科では学生の学外・学内でのマナーを向上させる試みを継続しておこなっており、平成20年度には学生を中心にマナーについての話し合いを重ね、「秘書科憲章」を作成して学生生活の指針とした。以来、秘書科生全員が秘書科憲章を記載したカードを携帯している。しかし、最近あらためてマナーの低下が意識されることとなり、クラスの代表を中心にまほろば教養ゼミの時間を活用してマナーに対する話し合いをおこなうこととなった。

#### ii. 経過

平成22年11月にまず各クラスで学外・学内でのマナーに関する現状とその解決法を話し合い、その結果を秘書科全員参加の集会で話し合った。一人一人がマナーを意識して行動すること、継続してフォローアップをしていくことを確認した。

その後、2年生は2回、1年生は1回、話し合いの時間を持ったが、共通してあげられたのは、11月の全体集会後も改善があまりみられないということである。特に、授業中に居眠りや私語が目立ち、各自で気をつけるという抽象的な改善策では効果がないことがわかり、具体的な取り組みを図った。新秘書科憲章を制定することとなり、クラス代表の話し合いで決定し、ポスターと各自の携帯するカードを作成・印刷した。

#### iii. 「新秘書科憲章」の発表

新秘書科憲章の発表は、平成23年1月の秘書科の創立記念式内でおこなった。学生代表が新秘書科憲章を作成した経緯を説明し、携帯用カードを配布し、ポスターは7号館4階ロビーとよく使われる教室に掲示された。

継続的に3か月余り話し合いをおこなったことで、安田の学生としてマナーを大切にしようと



いう意識が秘書科学生に生まれてきたと考えられる。2年生に実施した学内アンケートの中でもマナーについての話し合いが印象に残っているという意見が多かった。

今後は新入生にも新秘書科憲章を引き継いで、秘書科全体での取り組みを進めていく。

## 2) 「秘書科24冊読書マラソン」スタート

### i. 概要

- ・2年間の在学中に1カ月1冊の本を読破しようという試み。従来は休暇期間中の読書推奨は行っていた。平成22年4月スタート。

### ii. 目的

- ・幅広い分野への関心の誘い、読破する達成感、感想文を読み合うことによる他者との関わり等による課題探求能力の育成

### iii. 成果

- ・読書への親近感の醸成が図られ、所期の目的は達成されている。

## 3) 「卒業研究」：研究発表の公開化の実施

### i. 概要

- ・卒業研究の発表は従来秘書科内行事として行われて、対外的には非公開となっていたが、今回より主として保護者を対象に公開化した試み。

### ii. 目的

- ・公開化による秘書科の「卒業研究」科目の透明化、研究内容の向上、発表における習得マナーの実践。

### iii. 成果

- ・緊張感のもとで発表した学生（2年生）、真剣に聞きいる出席者（1年生他）、成長を確信できた保護者と、然るべき成果を得ることができた。

## 4. 今後の取組

本取組は平成23年3月末に終了した。しかしながら、秘書科においては、DIY教育システムの更なる深化と発展に向け秘書科「平成23年度事業計画」の一つの取組として推進することを平成23年4月1日決定した。この取組は学内においても学術研究予算の申請がなされ、予算申請額の一部が承認された。取組の概要は下記の通りである。

### (1) 課題

「持続可能な『課題探求能力』育成システムの構築に向けた秘書科内学際合同研究—平成20年度文部科学省「質の高い大学推進プログラム」選定秘書科取組の根幹であるDIY教育システムの深化と発展へ—」

### (2) 目的

「課題探求能力」育成を図るDIY教育システムを、①秘書科教職員全員で取り組む教育方法としての深化、発展に向けた持続可能性あるものとして、②学生個人が、在学中並びに卒業後も、「課題探求能力」の深化、発展に向け、持続可能性ある姿勢を習得できるものとして、その確立を目指す。

### (3) 方法

#### ①について

- 第1段階：教育 GP の取組実績から深化，発展への問題点の発掘（春季休暇，前期）。
- 第2段階：現在のカリキュラムの適合性の議論，検討（前期）。
- 第3段階：個別の科目内容について点検，アクティブ・ラーニングの導入等の検討。企業訪問によるヒアリング調査し，分野別・科目内容の情報収集，分析（夏季休暇）。
- 第4段階：課程内容・シラバス，アクティブ・ラーニングの結論（後期・春期休暇）。

#### ②について

- 第1段階：学生個々人の教育課程，教育課程外諸活動における総合目標，分野別目標のPDCA サイクルの自己評価シートのトライアル版を作成（春季休暇，前期）。
- 第2段階：上記の実績を基に，分析し，修正版を作成する（夏季休暇）。
- 第3段階：修正版を基に実施する（後期）。
- 第4段階：実績を分析し，数値的把握の体系を確立し，新版を作成（春季休暇）。

#### (4) 体制

平成20年10月～平成23年3月の30カ月の実績を踏まえ，引き続き，各イベントの積極的推進体制を維持するとともに，教育課程・教育課程外諸活動の統合による「課題探求能力」育成の相乗効果を期した柔軟な体制で対応する。

## ま と め

本プログラムの取組を企画・立案したきっかけは，参考文献2)にも記載しているように，「少子化」「デジタル化」「グローバル化」の視点から短期大学という教育現場において，「21世紀を生きる」学生の育成とは何かを，秘書科創立20周年のなかから出てきたものである。

短期大学は4年制大学と専修学校のハザマのなかで高等教育機関のひとつとして存立しえるのか。「秘書科」の名称を変えることなく，受験生を集め，卒業生を送り出している現在，2年間の教育期間を逆手に取り，2年間であるからできること，そして，秘書科だからできることを求め，試行錯誤の中から開発された「DIY教育システム」が一つの解答であると提起し，「課題探求能力」は21世紀を生きる「人間力」であり，これから20年に向けた秘書科のマニフェストであると宣言した。

教育GPの終了を持って本取組が終わることなく，4項に記載の通り，「DIY教育システム」の更なる深化と発展に向け，学内の支援を受けながら，新たな取組がなされることが決定した。「団結力」と「最後まで諦めない」気持ちを持って，21世紀の高等教育機関のモデルが提示できるように努めたいと思うものである。

## Summary

This report concluded that our 30 months' challenge was completed successfully and that "DIY" Education System is one of effective education methods to improve independence and individuality of Students. To deepen and extend "DIY" system in quality and scope further, we have decided to proceed with a new stage of this program.

## 参 考 文 献

- 1) 仁井和彦 「「プロジェクトワーク」取り組みにおける一考察—産学連携プロジェクトの進め方と女子短期大学の今後—」『安田女子大学紀要』第34号, 2006, p.121-128
- 2) 仁井和彦, 吉田行宏, 立花知香 「「課題探求能力」の育成を目指すDIY教育システム—愛されて20年秘書科の挑戦—(最近の試み)」『安田女子大学紀要』第37号, 2009, p.265-277
- 3) 仁井和彦, 吉田行宏, 立花知香 「体験を内面化し, 定着させるための試み—安田女子短期大学秘書科の教育プログラム」『ヒューマンスキル教育研究』秘書サービス接遇教育協会, 第17号, 2009, p.62-68
- 4) 橘野実子, 立花知香, 三宅重徳 「学科公開講座における学際的アプローチ—名スピーチをコミュニケーションに活かそう!—」『安田女子大学紀要』第38号, 2010, p.43-50
- 5) 仁井和彦 「教育GP取組プログラムの進捗報告と教育課程科目における実践事例報告—教育GP「課題探求能力」の育成に関連した必修科目「経済学概論」の授業実践—」『安田女子大学紀要』第39号, 2011, p.223-233

(追記) 本取組・研究は, 秘書科専任教職員全員の取り組みである。このなかで, 平成22年5月, 秘書科企画グループの一員であり, 本取組の最も良き理解者, リーダー的存在であった吉田行宏准教授が長年の闘病の末, 逝去された。教育GPが成功裏に終了し, 新たな取組が始まったことを故吉田先生に謹んで報告したい。

[2011. 9. 29 受理]